

第2 千秋公園の現況把握

第2 千秋公園の現況把握

1 千秋公園の概況

千秋公園は、日常的に花や緑の観賞や散策・ウォーキングなどに利用され、桜まつりやつつじまつりをはじめとして、多くの市民や観光客が訪れています。

千秋公園の入込客数（桜まつり、つつじまつり除く。）は、平成22年に48万2千人でありましたが、平成24年以降は27万人から35万人前後で推移しており、頭打ちとなっています。大きなイベントとして4月の桜まつり（平均22万人）、5月のつつじまつり（平均13万人）があり、多くの来園者でにぎわいます。

久保田城址歴史案内ボランティアの会や秋田市観光案内人の会などにより、久保田城跡と千秋公園の観光案内が行われています。

公園における取組の一つに、「千秋公園さくらファンド」として公園内のさくらの再生を目的とした寄附を募っており、さくらの植え替えや樹勢回復に活用されています。

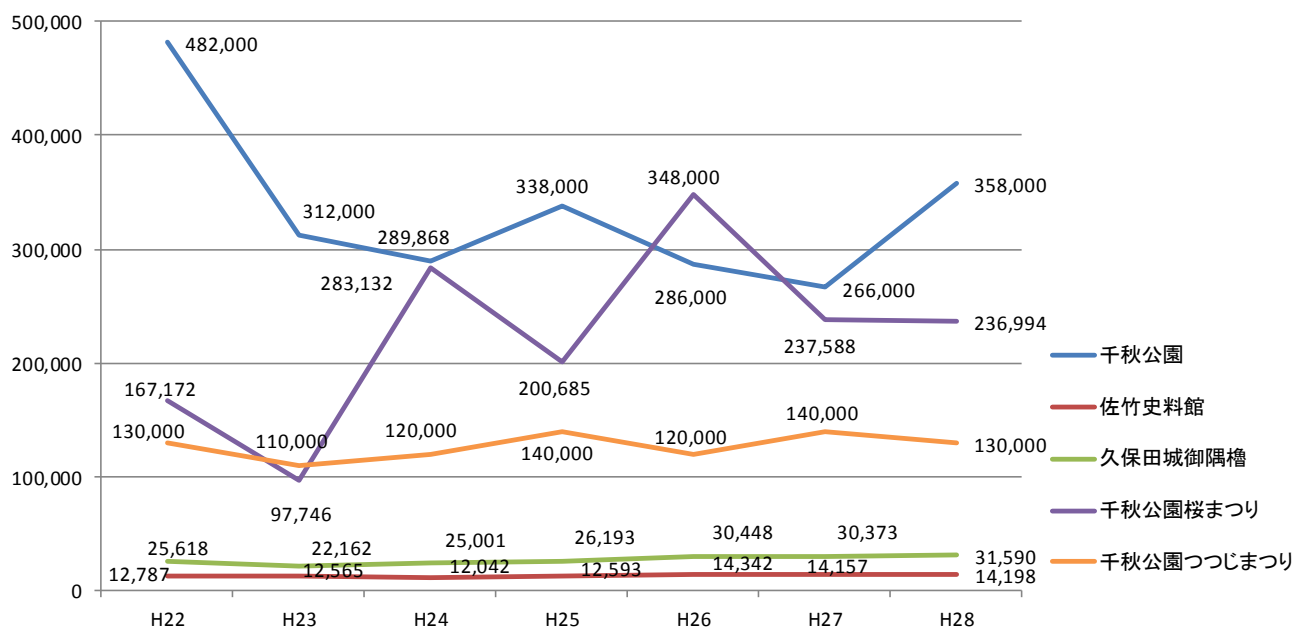
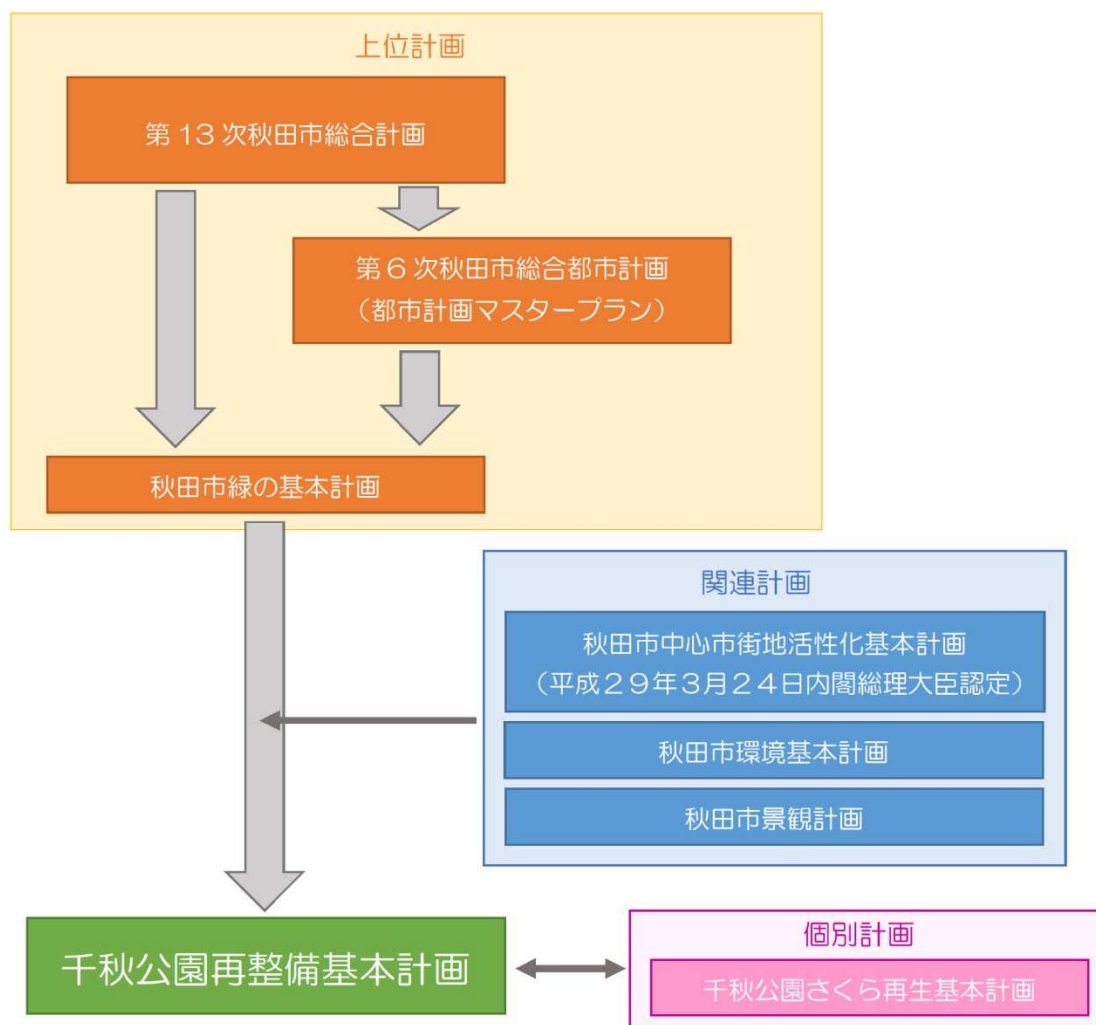


図 観光地点、行祭事・イベント入込客数推移（出典：秋田県観光統計）

2 上位・関連計画の策定状況

本計画の上位計画および関連計画との関係性については、次のとおりです。

■上位・関連計画との関係



■上位・関連計画と千秋公園に係る要素

位置づけ	上位関連計画	千秋公園に求められる整備・機能	要素				
			自然	歴史	芸術文化	利用	管理運営
上位	第13次秋田市総合計画	<ul style="list-style-type: none"> ・中心市街地は本市の“顔” ・地域資源を活かし交流人口拡大 ・文化を活かした魅力あるまちづくり 		●	●	●	
上位	第6次秋田市総合都市計画	<ul style="list-style-type: none"> ・観光拠点として整備 ・未開設部分の解消および整備拡充 ・眺望景観の確保 ・史跡、名勝の保存・整備 ・秋田らしい街なか空間 ・貴重な緑地空間 ・うるおいのある都市空間 ・観光拠点 ・豊かな自然環境 ・緑地空間の適切な保全・管理 ・公園と市街地を結ぶ導入部の魅力創出 ・中心市街地との連携強化 ・中心市街地と公園の連続性に配慮した景観の形成 	●	●		●	●
上位	秋田市緑の基本計画	<ul style="list-style-type: none"> ・緑の保全 ・景観の眺望点 ・都心の緑のシンボル ・レクリエーションの場となる緑として、保全・活用 ・水と緑のネットワーク化 ・千秋公園の未開設部分の解消を目指す ・歴史を伝える機能、観光拠点としての機能の向上 ・緑のネットワークによる回廊空間の形成 ・中心市街地における風格ある緑による演出 	●	●		●	
関連	秋田市中心市街地活性化基本計画(平成29年3月24日内閣総理大臣認定)	<ul style="list-style-type: none"> ・県・市連携文化施設や既設芸術文化施設等で構成する「芸術文化ゾーン」の形成 ・多様な人々が行き交い、新しい文化を育む舞台の形成 	●		●	●	
関連	秋田市環境基本計画	<ul style="list-style-type: none"> ・自然環境と一体となった史跡や景観をいかしたまちづくり ・体験学習や自然観察会などの機会の提供 ・エコツーリズムに係る活動の促進 ・史跡や景観、自然に支えられた郷土の祭りや伝統行事の伝承・保存 ・自然とのふれあいなどを促進していく仕組みづくり ・地域資源を活用した心豊かな暮らし方を内外に発信 	●	●		●	
関連	秋田市景観計画	<ul style="list-style-type: none"> ・公園の緑と調和する色彩 ・眺望景観を阻害しない工夫 ・観光都市としての景観整備 	●				
個別	千秋公園さくら再生基本計画	<ul style="list-style-type: none"> ・郷土色豊かな森づくり(里山の景観づくり) ・歴史的樹木の保全 ・歴史的遺構の保存 ・さくらの更新 ・公園内のバリアフリー化 ・地域協働による運営体制 ・さくらの名所づくり(イベント、広場の創出) ・利用者の園内誘導計画(誘導ポイントづくり)、誘導拠点づくり ・四季折々の千秋公園の演出 ・だれにもやさしい公園づくり 	●			●	●

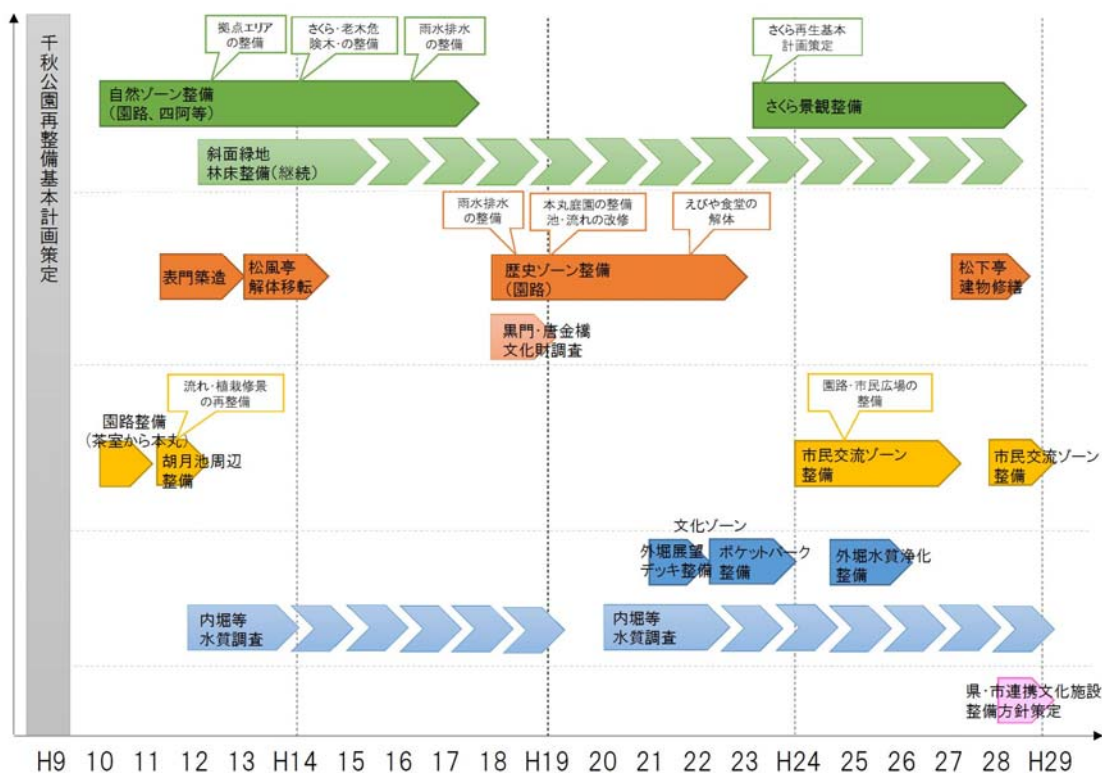
上位・関連計画の中で、本公園は次のような位置づけや役割が求められています。

- ① 豊かな自然環境の保全とともに、さくらを含めた樹木の保存や演出
- ② 景観の眺望点としての役割
- ③ 歴史的景観の保全や歴史を伝える機能
- ④ 既存の芸術文化施設との連携や、施設間の動線・回廊の創出
- ⑤ 観光やにぎわい創出の拠点
- ⑥ 生活の中での市民の憩いの場
- ⑦ 既存施設と連動し、地域協働による運営体制の構築

3 これまでの取組

平成9年2月に策定した前計画を基本として、今日まで様々な整備を行っています。

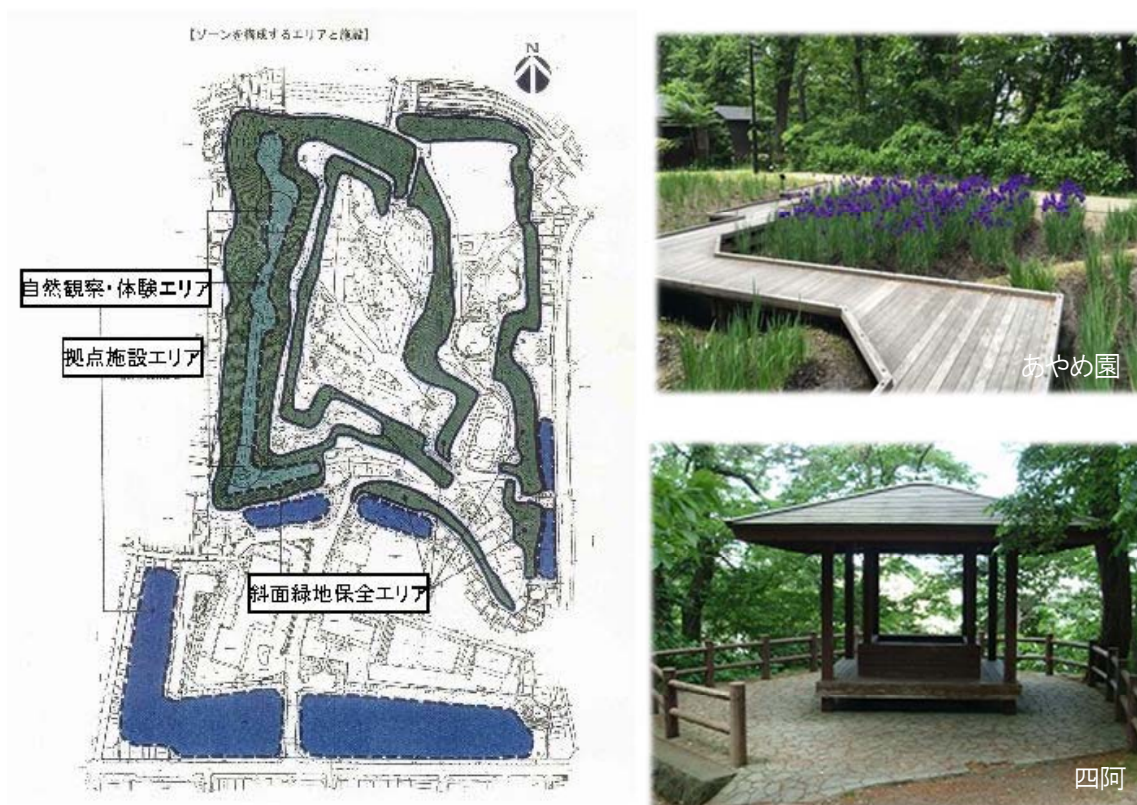
(1) これまでの整備項目



年度	主な内容
H10	園路整備 (茶室から本丸)
H10～17	自然ゾーン整備 (拠点施設エリア)
H11	胡月池周辺整備
H11～12	表門整備
H12～	斜面緑地の林床の植栽整備
H18～22	歴史ゾーン整備 (本丸庭園、私有建物の移転等)
H22～23	親水空間 (ポケットパーク) の整備
H23～	さくら景観整備
H24～26	市民交流ゾーン整備 (市民広場、園路、案内板等)
H25	外堀の水質浄化整備
H28	市民交流ゾーン整備 (園路)

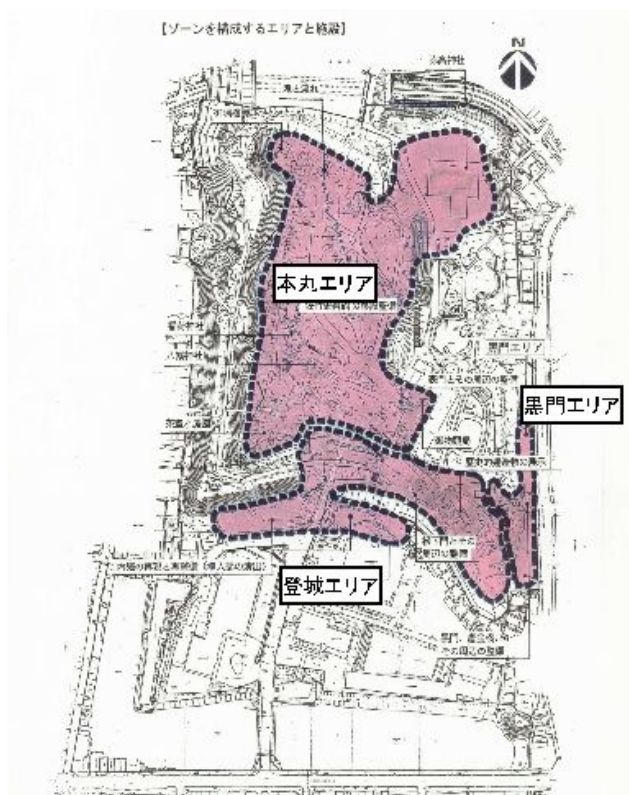
(2) ゾーン別の整備内容

ア 自然ゾーン



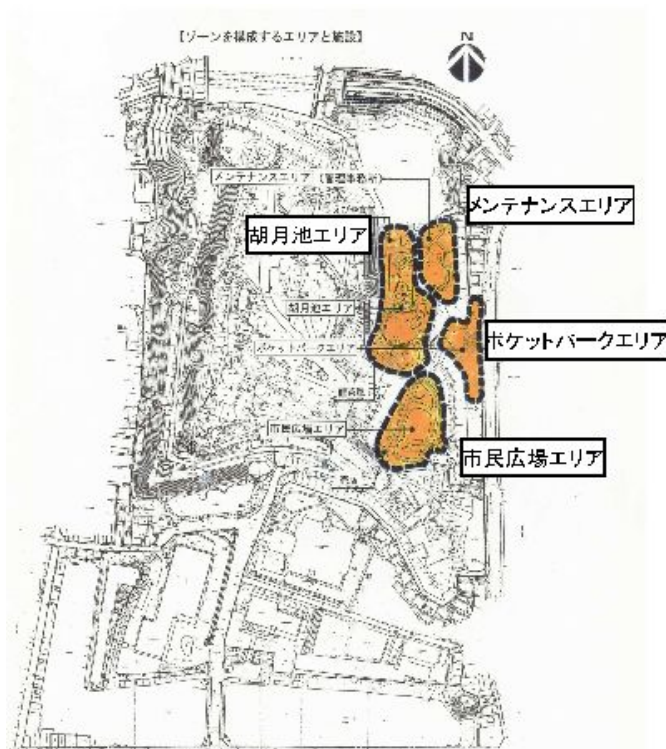
- (ア) 管理事務所周辺では、快適な散策空間創出のため、園路および園路沿いの整備を行いました。
- (イ) あやめ茶屋周辺では、現況の湿地を活用してあやめ園とし、散策路（デッキ）を整備しました。
- (ロ) 斜面緑地保全エリアでは、斜面緑地の保護と多様な林床植生の育成のため、林床の植栽整備を行っています。
- (ハ) 眺望や休憩に配慮し、四阿を整備しました。
- (ニ) 茶室から本丸ルートについて、園路沿いの植栽樹木を部分的に整理しました。
- (ホ) 「千秋公園さくら再生基本計画」（平成22年度）に基づき、さくらの再生に向けて土壌の改良をはじめとする取組を行っています。ソフト面の施策として、千秋公園さくらファンドも立ち上げています。

イ 歴史ゾーン



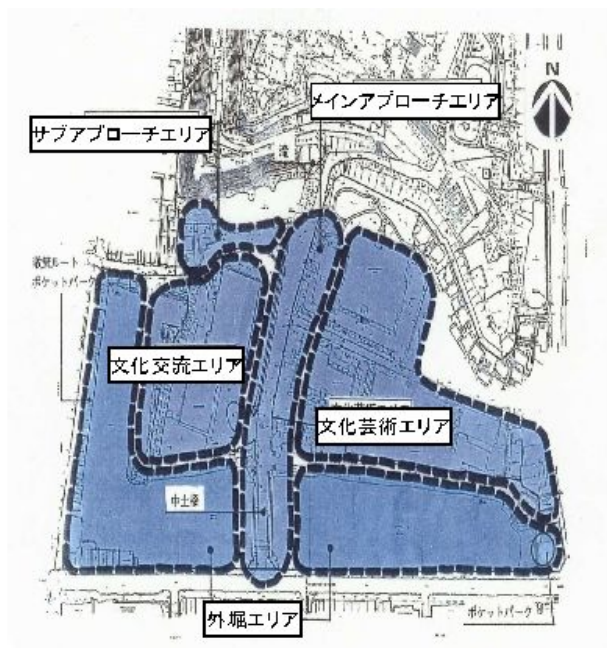
- (7) 歴史的景観要素および動線上の景観ポイントとして、既存資料や発掘調査に基づき、表門の整備を行いました。
- (4) 既設園路の舗装の見直しを行い、景観を意識した園路の整備を行いました。
- (6) 本丸エリアについて、本丸御殿の中庭をイメージした庭園とし、流れ等の整備を行いました。

ウ 市民交流ゾーン



- (7) 市民広場を各種イベントの開催を考慮した、より利用しやすい場として整備しました。
- (4) 胡月池エリアについて、利便性や景観に配慮し、園路の整備を行いました。
- (5) 景観の調和・デザインコントロールの観点より、えびや食堂は解体されました。

エ 文化ゾーン



- (7) 親水空間の充実・利用者の起点となるよう、西側ポケットパークの整備を行いました。
- (4) 水質悪化が懸念されていた外堀について、水質浄化を行っています。

オ 前計画での整備プログラムの実施状況

これまでの整備を前計画での整備プログラムに照らしあわせると、次のとおりになります。

分類	番号	整備対象項目	整備箇所 ゾーン	整備プログラム			整備状況
				短期	中期	長期	
建造物整備	1-1	門の整備(表門)	歴史	○	○		実施済み
	1-2	門の整備(黒門)	歴史	○	○		一部実施
	1-3	門の整備(松下門)	歴史	○	○		未実施
	2	唐金橋の整備	歴史	○			未実施
	3-1	神社周辺の修景	歴史	○	○		未実施
	3-2	住宅の移転	歴史	○	○		未実施
	4-1	えびや食堂のデザインコントロール	市民交流		○		実施済み
	4-2	鯉茶屋のデザインコントロール	市民交流		○		未実施
	4-3	香雲亭のデザインコントロール	歴史		○		未実施
	5-1	松下亭のデザインコントロール又は移転	歴史		○		実施済み
	5-2	松風亭のデザインコントロール又は移転	歴史		○		実施済み
	6	あやめ茶屋の移転又はデザインコントロール	自然	○	○		未実施
	7	佐竹史料館の移転整備と拡充	歴史		○		未実施
8	現史料館の跡地利用	歴史		○		未実施	
9	公園管理事務所の移転整備と跡地利用	自然		○		未実施	
10	鐘樓の改修	自然			○	未実施	
11	文化ゾーンの私設建造物のデザインコントロール又は移転	文化			○	未実施	
12	文化ゾーンの公共建築のデザインコントロール	文化			○	一部実施	
13	外堀沿いの住宅・商店の移転(西側ホケッパークの整備)	文化	○	○		一部実施	
基盤整備	14	東側ホケッパークの臨時駐車場化	市民交流	○			一部実施
	15	中土橋から登城ルートの園路広場整備	文化			○	未実施
	16-1	歴史ゾーンの園路整備	歴史	○			実施済み
	16-2	市民交流ゾーンの園路整備	市民交流	○			一部実施
	17-1	市民広場の整備	市民交流	○			実施済み
	17-2	本丸庭園の整備	歴史	○			実施済み
	18	花鳥風月の庭と胡月池周辺の整備	市民交流		○		未実施
	19	自然ゾーン拠点エリア他の整備	自然		○		実施済み
	20	文化ゾーン建築外構の整備	文化		○		未実施
	21	茶室周辺の庭園・園路修景整備	歴史		○		実施済み
	22-1	雨水排水系統の再整備(自然ゾーン)	自然	○	○		実施済み
22-2	雨水排水系統の再整備(本丸エリア)	歴史	○	○		実施済み	
22-3	雨水排水系統の再整備(登城エリア)	歴史	○	○		未実施	
23-1	電線類の地中化整備(自然ゾーン)	自然		○		未実施	
23-2	電線類の地中化整備(登城エリア)	歴史		○		未実施	
水と緑整備	24	さくら・斜面緑地の老木・危険木の整備	自然	○			一部実施
	25	林床の植栽整備	自然	○			一部実施
	26	園路沿いの植栽修景整備	市民交流		○		一部実施
	27	内堀の再現・整備	歴史		○		未実施
	28-1	外堀の水質浄化	文化	○	○		実施済み
	28-2	内堀の水質浄化	歴史	○			未実施
	29	池・流れの改修整備(本丸エリア)	歴史	○			実施済み
	30	流れの再整備(松下坂エントランス部)	歴史	○			未実施
	31	流れの再整備(胡月池周辺)	市民交流		○		実施済み
市民の参画	32	ワークショップ・イベントの企画・実施	—	○			一部実施
	33	情報公開と計画の認知	—	○			一部実施
	34	公園のモニタリング	—	○			未実施
	35	トラスト・基金の創設	—		○		一部実施

(3) これまでの取組のまとめ

前計画では、計画テーマである「水と緑と歴史的資質を活かした市民による公園づくり」に基づき、表門をはじめ、市民広場、西側ポケットパークおよび堀の水質浄化設備など、千秋公園の歴史的経緯と敷地特性を活かした整備を進めてきました。

その一方で、歴史的建造物の復元や私設建造物の移転など、いくつかの整備項目が実施に至っておりません。

このことから、本計画においては、前計画の反省を踏まえ、十分な進捗管理のもと、より効果的で具体的な施策による公園づくりを進めることが求められています。

4 利用実態および市民等ニーズ

(1) 公園利用者数

千秋公園では、平成19年度および平成26年度に平日および休日の入園者数（7時から19時までの12時間）を把握するため、都市公園利用実態調査を実施しています。ア 千秋公園の入園者数は、平日は1,000人前後、休日は1,500人前後で推移しています（表1）。

イ 年齢層別にみると、平成26年度の若年層（高校生以下）/大人/高齢者の利用割合は、平日が10.0%/57.0%/33.0%、休日が13.7%/63.3%/23.0%となっており、千秋公園と同じ公園種別である総合公園の全国的な利用割合*と比較すると、若年層の利用割合が低く、高齢者の利用割合が高くなっています（表1、図1）。

※ 総合公園の年齢層別利用割合（若年層/大人/高齢者の順）は、平日 16.5%/62.6%/20.9%、休日 23.2%/61.7%/15.1%（「平成26年度 都市公園利用実態調査 報告書」より）

表1 千秋公園入園者数

入園者数	H19 平日	H26 平日	H19 休日	H26 休日
学齢前	15	42	74	59
小学生下級生	12	12	42	44
小学生上級生	11	6	20	34
中学・高校生等	33	53	160	63
大人	672	643	1,143	926
高齢者(65歳以上)	191	372	397	337
合計	934	1,128	1,836	1,463

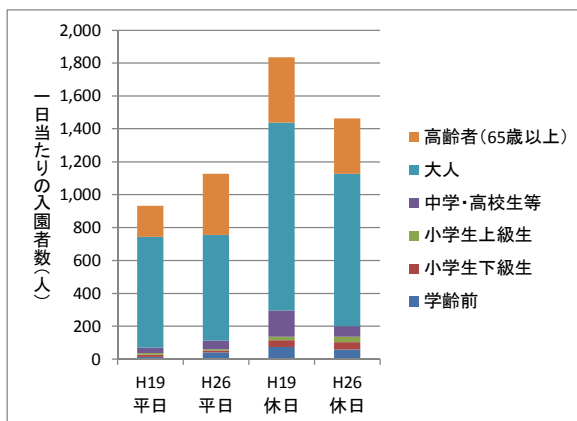


図1 千秋公園入園者数

(2) 公園の利用実態および市民等ニーズ

計画改定に当たって、市では公園の利用実態やニーズ等を把握するため、公園利用者や市民等を対象とした意向調査（アンケート調査）を平成29年度に実施しています。調査概要および調査の結果は、次のとおりです。

表2 調査概要

調査事項	実施概要	備考
①公園利用者アンケート	調査日: 平日7/26(水)、休日8/5(土) 回収数: 237票(平日102票, 休日135票)	休日調査は竿燈まつり期間
②市民アンケート	調査日: 7~8月(無作為抽出, 郵送) 対象者: 市内在住の18歳以上1,000人 回収数: 494票(回収率49.4%)	
③学生アンケート	調査日: 8月(学校へ配布) 対象者: 近隣高等学校の学生2年生 回収数: 223票	国学館高等学校、秋田和洋女子高等学校
④児童アンケート	調査日: 8月(学校へ配布) 対象者: 近隣小学校の児童5年生 回収数: 227票	保戸野、中通、明德、東、旭北小学校
⑤商業・観光関係者アンケート	調査日: 8~9月(郵送) 対象者: 市内企業149社、中心市街地の商店街組合18社の計167社 回収数: 63票(回収率37.7%)	

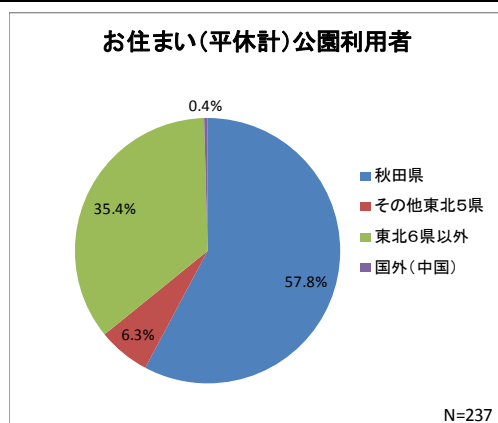


図2 居住地(公園利用者)

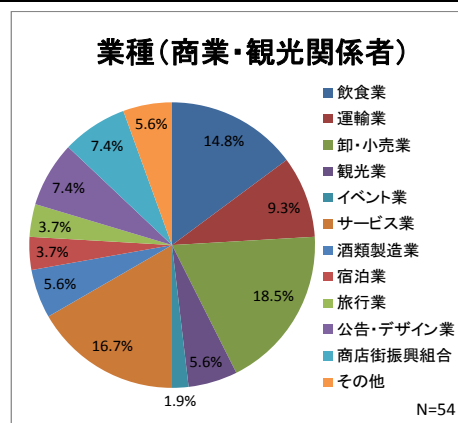


図3 業種(商業・観光関係者)

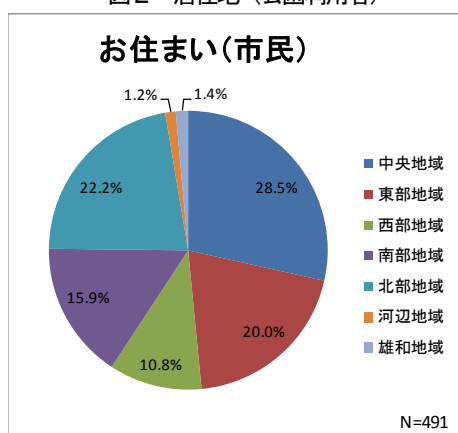


図4 居住地(市民)

ア 利用者特性、来園目的

- (7) 公園利用者は、日常利用（市内）と観光等利用（県外）に大別され、利用目的は日常利用では散策・ウォーキング、花や緑の観賞であり、観光等利用では歴史的な建物の見学が多くなっています（図5）。
- (4) 市民、学生、児童アンケートでは、利用目的は、いずれも花や緑の観賞、散策・ウォーキングが多いですが、学生や児童ではイベントや催し物の見学・参加、ジョギングなどの運動も多くなっています。
- (6) ただし、6割の市民が昔と比べて「来園回数が減った」と回答し、中心市街地の集客性や千秋公園の魅力（さくら等）の低下、公園への交通の利便性が悪い（駐車場が少ない）ことなどが、近年の来園者数が頭打ちとなっている要因となっています（図6、7）。

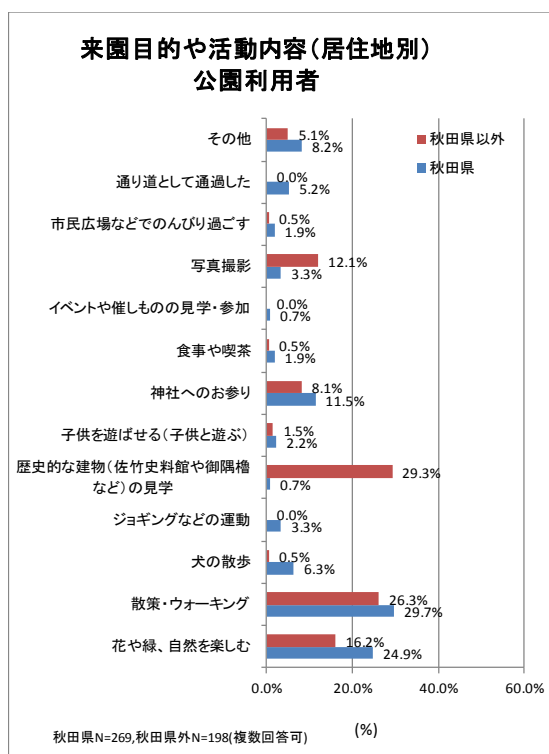


図5 居住地別 来園目的や活動内容 (公園利用者)

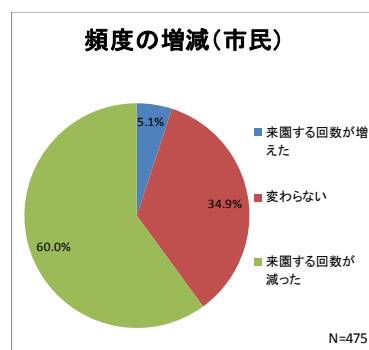


図6 頻度の増減(市民)

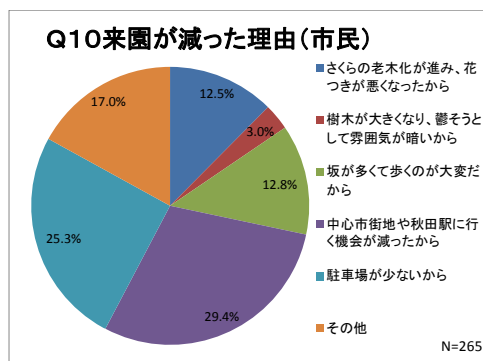


図7 来園が減った理由(市民)

イ 利用施設

- (ア) 利用が多い施設は、各アンケートとも市民広場、久保田城御隅櫓、本丸跡、表門、胡月池等となっていますが、現地アンケートでは、特定の施設ではなく園路（散策路）の利用が多くなっています（図8）。
- (イ) 利用が少ない施設は、各アンケートとも茶室「宣庵」、各私設の店舗、児童遊園地、ポケットパークなどとなっています（図8）。
- (ウ) 利用が多い施設では、久保田城御隅櫓、表門、胡月池は比較的満足度が高くなっていますが、売店、本丸跡は満足度が低くなっています（図9）。

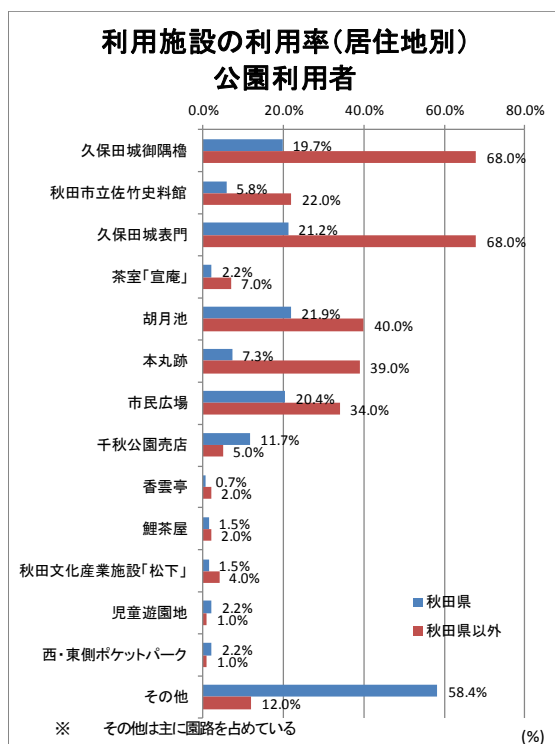


図8 利用施設の利用率（居住地別）

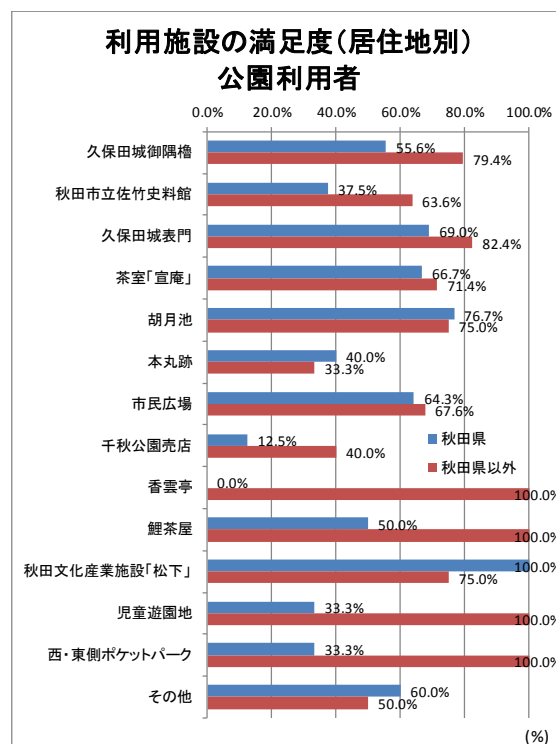


図9 利用施設の満足度（居住地別）

ウ 改善すべき点

- (ア) 改善すべき点は、各アンケートとも駐車場の増設、さくらの老木の更新、支障木の伐採などが多くなっています（表3）。
- (イ) 特徴的な傾向として、県外利用者（観光）は、案内板や誘導標識の充実、学生は飲食施設やイベントの充実、商業・観光事業者は歴史文化的なイベントや中心市街地と連携した体験やイベントの充実を求める意見が多くなっています（表3）。

表3 改善すべき点（アンケート別）（アンケート結果より抽出）

改善事項	公園利用者 (県内)	公園利用者 (県外)	市民	学生	商業・観光関係者
1位	さくらの老木の更新、 支障木の伐採 (35.0%)	案内板や誘導標識の 充実(36.0%)	駐車場の増設 (61.7%)	カフェ・レストラン (35.9%)	駐車場の増設 (58.7%)
2位	駐車場の増設 (24.8%)	ハスの観賞用の棧橋 やデッキ (14.0%)	さくらの老木の更新、 支障木の伐採 (37.9%)	コンビニエンススト ア・売店 (34.1%)	歴史・文化的なイベン トや催し物の充実 (38.1%)
3位	遊び・休憩ができる 広場、開放空間 (14.6%)	駐車場の増設 (13.0%)	遊び・休憩ができる 広場、開放空間 (31.0%)	冬季のイベント(イル ミネーションなど) (31.8%)	さくらの老木の更新、 支障木の伐採 (38.1%)
4位	案内板や誘導標識の 充実 (13.9%)	主要園路のバリアフ リー化(12.0%) 黒門などの復元 (12.0%)	カフェ・レストラン (28.7%)	歴史・文化的なイベン トや催し物の充実 (31.4%)	中心市街地と連携し た体験やイベント (36.5%)
5位	カフェ・レストラン (9.5%)	カフェ・レストラン (12.0%)	中心市街地と連携し た体験やイベント (24.9%)	主要園路のバリアフ リー化 (28.7%)	カフェ・レストラン (31.7%)

エ 民間活力・事業参入意向

(ア) 千秋公園の活性化には、公園内でのイベントや催し物、カフェ・レストランの充実を求める意見が多くなっています（表3）。

(イ) 千秋公園での事業参入意向としては、カフェ・レストラン等の収益事業、イベント（祭り等）時の出店（飲食）が複数企業でみられ、民間活力導入の可能性がうかがえます（アンケート結果より）。

オ 自由記述における意見（アンケート結果より）

(ア) 施設整備（ハード）に関する意見としては、案内標識、駐車場、飲食施設、遊戯施設、休憩施設に対する要望が多く、児童からは、公園の緑や自然、地形を活かした遊びや体験（例：アスレチック、キャンプ、サイクリング等）が多くなっています。

(イ) 管理・運営（ソフト）に関する意見では、さくらの更新、イベントの充実、公園のPR（情報発信）などが多くみられ、特に学生や児童はイベントの充実に関する意見が大半を占めています。

(ウ) 一方、公園利用者アンケートでは、「このままで良い」等の現状維持に肯定的な意見も多くなっています。

カ 利用実態および市民等ニーズのまとめ

(7) 来園者の属性（年齢や居住地）に応じた来園目的やニーズの多様さ

- a 市民は日常的な利用として、花や緑の観賞、散策・ウォーキング、学生や児童はイベントや催し物の見学・参加、ジョギングなどの運動、県外利用者は歴史散策等（観光）など、来園者の属性に応じて来園目的や活動内容が多様化しています。
- b そのため、改善すべき要望も、自然（さくらの更新）、歴史文化（案内板、歴史的建造物の復元）、その他公園利用に関する利用（駐車場の増設、カフェ・レストラン、イベント充実）など、来園目的に応じて優先順位が異なっており、ニーズに応じた再整備が必要となっています。
- c また、歴史文化・自然的な価値の保全・継承すべき課題と、利用促進・利便性の向上に関する課題が相反しています。（例：城跡の地形保存⇔園路のバリアフリー化、自然・緑の保全⇔開放的な空間、眺望の確保）

(4) 利用率の格差と満足度が低い公園施設

- a 園内施設は、市民広場、久保田城御隅櫓など利用が多い施設と、児童遊園地、ポケットパークなどの利用が少ない施設に大別され、利用状況の格差が大きくなっています。また、散策・ウォーキング、ジョギング等の回遊的な園路（散策路）の利用も多くなっています。
- b 千秋公園売店、本丸跡は、比較的利用されているものの満足度が低く、改善を図っていく必要性があります。

(5) 民間活力導入の可能性

- a 民間企業からのカフェ・レストラン等の収益事業に関する事業参入意向が見られ、民間活力導入の可能性が示唆されます。
- b イベント（祭り等）時の出店（飲食）などの参入意欲も複数みられるため、参入しやすい機会（イベントの充実）や場所（建物や敷地）の提供により、公園や周辺施設の利用促進や活性化が期待できます。